

し、今、貿易自由化を迎えて激化する国際競争の中で、わが国鉄鋼業の安定的成長を図っていくためには、以前にも増して、設備計画、原料の確保、価格の安定、市場の拡大などあらゆる面における業界の協調体制を一層緊密にし、強化を図っていく必要があります。各企業が自己の利益と思惑にかられて気儘な行動をとれば、たちまちにして過当競争の弊に陥り、それは鉄鋼業自体の自殺行為を意味するのみならず、日本経済の将来に大きな損失をもたらすものであります。鉄鋼業に従事する者全てが今一度自からに課せられた重要な使命に思いを致し、相互の信頼と協力によつて鉄鋼業の繁栄を図る方策を真剣に考えてみたいものであります。

IV. む す び

以上で日本の鉄鋼業が当面する問題とその解決の方向について私の意見を述べてみたのであります。

最近、私の関心を引いたものに「フォーチュン」誌の昨年12月号でアメリカ鉄鋼業の将来について述べられた記事があります。これは、アメリカ鉄鋼業は少なくとも今後10年間は相当の成長を続けるにしても、やがては斜陽産業になる日がくるかもしれないと警告してい

るのであります。すなわち、アメリカにおいては1955年以来、実質国民総生産は12%上昇しているのに鉄鋼生産は13%減少しておりますが、その重要原因として鉄鋼価格の上昇が他の工業製品の価格の上昇を上廻つたために、アルミニウム、プラスチック、コンクリートなどの競争物資が既成の鉄鋼市場を蚕食するのを許したことや、また、新しいエンジニアリングやデザイン技術の進歩によつて鉄鋼使用量の節約のいちじるしいことを指摘しているのであります。もちろん、これに対処して、アメリカ鉄鋼業は従来の価格販売政策を変更し、新しいマーケティング戦略の展開と技術の開発に積極的に乗り出して必死の立直りの努力を続けております。

日本において、近い将来、鉄鋼業がこれと同じ運命を辿るとは考えられませんが、この事実を他山の石として謙虚に自らの経営を反省する態度が必要であります。ともあれ、日本鉄鋼業の前途は決して平坦なものではありませんが、今後の日本経済の繁栄を支えるべく重化学工業に寄せられる期待は大きいのであり、その中核となる鉄鋼業が益々合理化を進捗させ、与えられた使命を果たすことの重要性を痛感するしだいでありませう。

(昭和36年4月寄稿)

国際大型鍛造物会議開催について

International Meeting on Heavy Forging が本年9月26日から29日までイタリアのテルニーで開催されますのでお知らせいたします。

1. 参加申込 1961年8月15日までに申込むこと。
(講演申込については案内書到着の時すでに締切日を過ぎていたので省略)
2. 大会参加費 5,000 リラ、参加申込と同時に送付のこと。
3. プログラム (暫定)

1961年9月26日～28日	講演会、工場見学、パーティー
〃 9月29日	旅行
4. 宿 泊 希望者に宿泊の斡旋をする。
5. 詳細については下記にお問合わせ下さい。

Segreteria del Convegno italiano della grossa fucinatura c/o Camera di commercio industria e agricoltura, Largo Don Minzoni, 6-TERNI (Italy).